取組の概要

文部科学省では、平成 16 年度より、各種審議会からの提言等、社会的要請の強い政策課題に対応したテーマ設定を行い、各大学·短期大学·高等専門学校から申請された取組の中から、特に優れた教育プロジェクト（取組）を選定し、財政支援を行うことで、高等教育の更なる活性化が促進されることを目的とした「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」（通称：現代 GP）を実施している。GP とは、Good Practice（優れた取組）の略である。

筑波大学では、生物資源学類と芸術専門学群が「新しい課題対応型体験学習プログラムの開発－地域連携によるマイスター育成講座への運営参加を通して－」を取組課題として申請し、平成 17 年に、筑波大学としてはじめて、本取組が現代 GP に選定された。本プログラムは、平成 17 年度に全国の大学等から地域密着型分野に申請された 160 件の中から選ばれた 27 件のうちの一つで、平成 17 ～ 19 年度の 3 年間実施した。社会貢献を通して学生を教育する本取組は、食、環境、芸術の各分野で自律的リーダーとなり得る市民を育成するマイスター育成講座に本学学生を正規のカリキュラムの一環として参画させることで、学生自らが大学で修得した理論の実践を通して、自己のキャリア意識と内発的学習意欲を向上させる「課題対応型体験学習プログラム」を開発する取組である。

このプログラムは、生物資源学類では「食と緑のマイスター育成講座」、芸術専門学群では「美と芸術のマイスター育成講座」の市民向けの社会貢献講座をそれぞれ開設し、それに学群・学類の 3 ～ 4 年次生を運営スタッフとして参加させて、市民が実施する実習・演習、課題別学習、フィールドワークの企画·実行を行うもので、通年 2 単位の「食と緑のインターンシップ」および「美と芸術のインターンシップ」の授業科目としてそれぞれ新設した。

今日の大学には従来の教育·研究に加えて社会貢献が課されているが、本取組は社会貢献を教育に取り入れることで双方を円滑に推進すると共に、現代社会で求められる「確かな社会貢献マインド」と「豊かな感性」を併せ持つ学生の育成を目指した。

